

# No MUSTANG, No Life!

協力：マスタング・オーナーズ・クラブ・ジャパン  
撮影：浅井岳男  
★★★★★ マスタングスブーキー

半年ぶり、2018年になってからは誌面初登場の編集部マスタング：サブロー号。実はこここの所ずっと不機嫌だったんですね。なかなかエンジンがかからず、かかったとしてもすぐにストールしてしまうという状態が続いていたのだ。そんなわけで電装・点火系のプロフェッショナルであるシンコーベンジニアリングにて診てもらい無事に復活したのだった。

## 半年ぶりに復活したサブロー号

# 点火系を一新してゴキゲンに!の巻

## サブロー号の反抗期もようやく治まったかな？

去年の秋くらいから、編集部マスタング・サブロー号の反応期がはじまり（エンジンのかかりが悪かった）、スタートー、キーシリンダー、リレーを交換。一時、素直な良い子になつたかと思ったのだが、またエンジンのかかりが悪くなつたのだ。いずれ機嫌も良くなるだろうと舐めていたら、その後まったくエンジンがかからなくなつてしまつた。

電装系と点火系にどつても疎い編集部イジリー木村…。今回も電装・点火系のプロ「シンコーベンジニアリング」に診ていただくことになった。的確な診断により、スパークプラグ、イグニッションコイル、デスビローターを交換。めでたくサブロー号は復活した。

半年前にキーシリンダーの交換を行なうことで、エンジンがかからないという症状は改善したはずだった。しかし、その半月ほど経つと同じ症状が出るようになつてしまい、その後リレーを交換。それから数ヶ月後、またエンジンがかからなくなつてしまつたので再びシンコーベンジニアリングに相談。旧車に限らず、クルマの故障は何か一つ改善するごとに、次の部分が不具合が出る負のスパイラルに陥るので、一つ一つ改善していくことがカギとなるのだ。



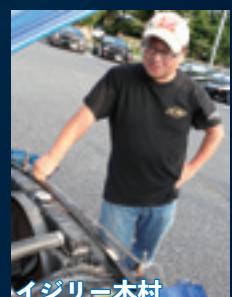
今回交換したパーツはスパークプラグ、イグニッションコイル、デスビローターの3つ。スパークプラグは、イグニッションプラグ、点火栓(せん)とも呼ばれる部品で、ガソリンエンジンの混合気に点火するためにシリンドラヘッドに取り付け、シリンドラ内の圧縮された混合気に点火する役割がある。そして上の写真的イグニッションコイルとは、ガソリンエンジンのスパークプラグに、高圧電流を供給するための変圧器のこと。12ボルトの電圧を10000～30000ボルト程度に変換するパーツだ。そしてデスビローターとは、イグニッションコイルで発生した電気を、エンジン回転と連動して分配する機能を持つパーツ。これが摩耗すると、スパークプラグへの電気の供給が弱くなり、エンジンがかからなくなつたりするのだ。



式号機：ブシロー号



初号機：サブロー号



イジリー木村

アメ車マガジン編集部のヨタカ。異常に物欲が強くモノへのこだわりも人一倍。そんなこともあって2台のマスタングを所有。それらを広いガレージに入れたくて、2年前から田舎暮らし始めたナイスミドルである。

た式号機の「ブシロー号」は1976年型のマスタングII。ようやく自走できるようになったが、不人気車の宿命か、パーツが入手困難につきレストア作業はなかなか進んでいない…。土になる日が近いかも。

イジリー木村の初号機「サブロー号」。1968年型のマスタングGTだがシェルビーGT500ルックになっているのが特徴。390ビッグブロックエンジンを搭載したれっきとしたマッスルカーなのだ。

# マスタングスプーキー



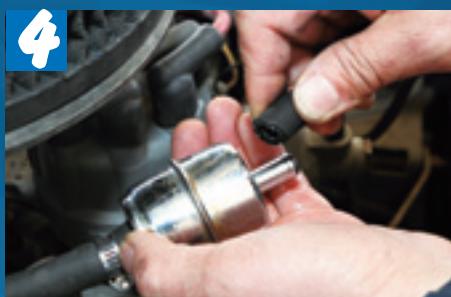
1 プラグはパレブカバーの中に存在。V8エンジンの場合、8本のプラグを使用。中央の丸がディストリビューターで、中にデスピローターが入っている。下の丸がイグニッションコイル。



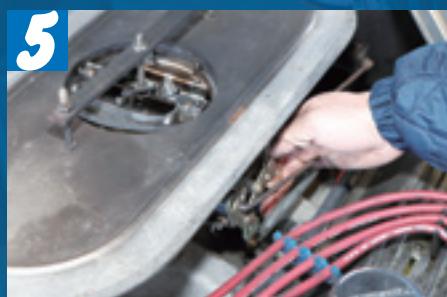
2 今回もシンコーベンジニアリングのベテランメカニックの鈴木さんが作業を担当。タワーべーを外し、パレブカバーを外し、プラグを交換。エンジルームがギチギチなので大変な作業。



3 左が使っていた古いスパークプラグで、右が新しいもの。不完全燃焼が多くなると堆積したスラッジにより、このように黒に、さらに古いものは電極の火花ギャップが広がっている。、従って定期的な交換が必要な部品なのだ。



4 もしかして燃料が流れていないことも考えられるので、念のため燃料ポンプのチェックも行なった。燃料ホースも外して燃料が流れているか診たが、ここは問題がなかった。



5 スロットルバルブもチェックしたが、こちらも問題はなし。すなわち燃料系には問題がなく、点火系が今回の問題であること予想できたのだった。



6 イグニッションコイルの電圧を計ると、1次側の抵抗がV8エンジンは $1.5\Omega$ が普通なのだが、これは $2\Omega$ と $3\Omega$ という数値が出た。イグニッションコイルが一番の要因であることが判明。



7 接点が8個あり、電気をプラグに分配する役目のデスピローターを交換するためにデスピキャップを外す。シンプルな部品だが重要な役割を持っており、定期的な交換が必要なのだ。



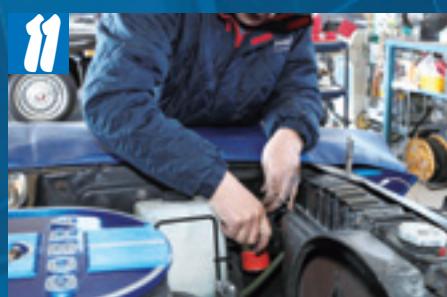
8 手前が新しいデスピローターで、奥が古いもの。古いものはバネがへたりてしまっていてイグニッションコイルで発生した電気をうまく分配できなくなるのだ。



9 デスピキャップとローターは、ローターが回転して、それぞれのキャップ側接点に、機械的に接触する構造なので、走行距離に比例して接点が磨耗していくのだ。



10 こちらが、これまで使用していたイグニッションコイル。ガソリンエンジン車では、エンジンの燃焼室内の混合気を燃焼させる為の火花を作るための電気を供給する重要な部品なのだ。



11 そして新しいものに交換。バッテリーからの12Vの電圧を10000~30000V程度の高電圧に変換する必要があり、イグニッションコイルはこの電圧の変換を担っている偉い奴なのだ。



12 スパークプラグ、イグニッションコイル、デスピローターを交換してエンジンをかけてみる。キーを捻って一発始動！ 電装・点火系がいかに重要なのかを痛感したイジリーであった。

## 国土交通省が認めた電機のエキスパート

今回もサブロー号のチェック＆メンテナンスをお願いしたのは埼玉県加須市にお店を構える「シンコーベンジニアリング」。カーエアコン、バッテリーなど、クルマの電機に関する「電装屋」、すなわち電機のプロショップだ。創業50周年となる老舗ショップであり、その豊富なノウハウと実績により、頼りにしているクルマ屋さんも多数。アメ車をはじめ日本車、各國の外車、そしてビンテージカーのメンテナンスも行なう。さらに大型トラックや建設機械、農業機械のメンテナンスも行なうことからも分かるように、そのスキルはまさにプロ中のプロなのだ。サスペンションテスター、ブレーキテスターなども完備！ 電機に問題を抱えているアメ車オーナーさんは是非相談してみよう。



**シンコーベンジニアリング**  
location◆埼玉県加須市下高柳1632-3  
phone◆0480-76-0234  
URL◆<http://nttbj.itp.ne.jp/0480760234/index.html>  
営業時間◆8:30~18:00 定休日◆日曜・祝日

